



徳島大学整形外科

浜田 大輔 特任准教授



支援ロボで質の高い手術

膝関節は、日常生活において歩く・立つ・座るといった重要な動作を支えています。しかし変形性膝関節症、関節リウマチ、膝骨壊死などの疾患が進行し、内服薬、外用剤、リハビリ、関節注射などで十分な効果が得られない場合は手術が必要となります。手術にはいくつかの方法がありますが、高齢である程度膝の変形や破壊が進行した場合、人工膝関節置換術の対象となります。

人工膝関節置換術は既に確立された術式で、優れた除痛効果に加えて変形の矯正も可能で、国内では年間8万件以上行われています。一方で世界各国の登録データからは、手術を受けた患者さんの15%程度が術後の膝に何らかの不満を持っていることも報告されており、より満足度の高い手術を行うためにはまだまだ改善の余地がある手術でもあります。

徳島大学病院では、1月から

国内で6施設目で、国立大学では初めての手術支援ロボット「Navio」を導入し、人工膝関節置換術を行っています。人工関節置換術のロボット支援システムでは、赤外線カメラを用いて膝の骨の形状を3Dスキャンし、関節を支える靱帯（じんたい）バラ

当院整形外科では、患者さんにとって少しでも良い治療が提供されることを目指して手術支援ロボットを導入しており、手術支援ロボットのような高度機器を扱える医師の育成にも尽力しています。